

NS 九州地区遊連青年部会が依存問題勉強会

九州地区遊技業組合連合会青年部会は3月14日、沖縄県浦添市の沖縄県遊協・沖遊連会館において、リカバリーサポート・ネットワーク(RSN)の西村直之代表による、ぱちんこ依存問題の勉強会を開催した。勉強会は、九州の各県をはじめ山口や大阪、神奈川、東京からも参加者があるなど、青年部会ネットワークの広いつながりを示すものとなった。

講演を行った西村氏は、まず、ぱちんこ依存問題相談機関である同組織の成り立ちや現状について説明。さらに最近の傾向について、電話相談による問題解決の支援を

求める相談者が増加して通話時間が伸びてきているとした。また、相談者自身による問題解決への取り組みを促すアドバイスを積極的に行ったことで、電話相談のみで終了するケースが増えてきていることも明らかにした。

一方、「依存」の原因としては、「社会に対する適応力」を挙げ、ゲームやインターネットが依存の対象となっている現在の若者のケースを説明しながら、パチンコを悪者扱いすることへの違和感も述べた。その後、勉強会の参加者らは、西原町にあるRSN事務所を訪問し、相談員らと情報交換を行った。



西村氏が依存問題について講演



西村直之代表



RSN事務所を訪問し相談員と情報交換

NEWS SCRAMBLE

ニュース ス克蘭ブル

NS 都遊協、夏にもファン感謝開催へ

東京都遊協は3月22日、都内市ヶ谷の遊技会館で定例理事会を開催し、「夏のファン感謝デー」の実施案を示した。

全日遊連主催の秋のファン感とは別に、都遊協ではすでに春に独自のファン感を主催しているが、今回はこれにさらに追加して、7月14日からの3日間開催する。タイトルに「パチフェス2012」と掲げ、若年層の取り込みを意識した広告宣伝やセットコース賞品、ギフト賞品を用意する。若年層のぱちんこ・パチスロ離れに危機感を抱いた青年部会が中心となって、具体化を進めてきた。

「パチフェス」は既存のファン感と同様のスキームで開催する共同懸賞。1セットあたり5000円を社会貢献費として拠出する。社会貢献費は先の震災で被災地となった宮城県石巻市で毎年夏に開催されている「石巻川開き」が予算不足に陥っていることから、この花火大会の協賛を行うという。

理事会における決議事項では、暴排条例の施行を機に賛助会員制を導入した暴追都民センターの賛助会員になることが可決されたほか、平成24年度の重点推進項目を決めるなどした。

委員会報告では、機械対策委員会から、最近におけるゴト及び不具合のメーカー対応状況の説明があり、案件の半数以上がパチスロのサブ基板系の問題で、飯田雅夫機械対策委員長は「4号機の後半に近い比率」と懸念した。

また、理事会に先だって開催した臨時総代会では、役員の補充選任として前青年部会長の山口俊一氏を監事に選出した。



「パチフェス2012」イメージ案